

学術館について



国立大学法人山梨大学 学長 島田 眞路

山梨大学では、大村智博士の2015年ノーベル医学・生理学賞の受賞を機に設立した「山梨大学大村智記念基金」にお寄せいただきました寄附金を活用し、このたび『大村智記念学術館』を創設しました。

本学術館は、「地（知）の拠点」の責務を担う本学の象徴的な建物として、武田信玄公を祭神とする武田神社に向かう武田通り沿いに設置しました。外観は、本学の前身である江戸時代の甲府学問所「微典館」の八角三層をモチーフに、歴史を彷彿させるデザインとしています。

館内1階には、大村博士の本学在学時の卒業論文や業績、ノーベル賞関連品をはじめとした大村博士ゆかりの品々を展示するとともに、本学創立のルーツである微典館に関する資料のほか、本学の学術資源や研究成果を紹介する専用コーナーを設けています。また2階には、講演会やシンポジウムの開催のほか、来訪者交流の場として多目的にご活用いただける「大村記念ホール」を設置し、本学でも様々なイベントを企画して皆さまのご来場をお待ちしています。

本学術館が山梨大学ならびに県都甲府市のシンボルとなり、魅力あふれるまちづくりの一翼を担う存在として、更なる発展を遂げられるよう、教職員一同、努力してまいります。

山梨大学全学同窓会 会長 天野 一
(山梨大学大村智記念基金管理運営委員会委員)

大村智博士のノーベル賞受賞は、山梨県にとって「甲斐の国」武田信玄公が戦国の世に名を馳せて以来の快挙です。大村博士の研究業績の原点である山梨大学に「山梨大学大村智記念基金」を設立し、これを活用して『大村智記念学術館』を創設できたことは望外の喜びであり、大村博士のご功績を後世に残すためにも非常に有意義なことです。これもひとえに本基金の趣旨にご賛同いただき、ご支援くださいました皆様方のおかげと深く感謝申し上げます。

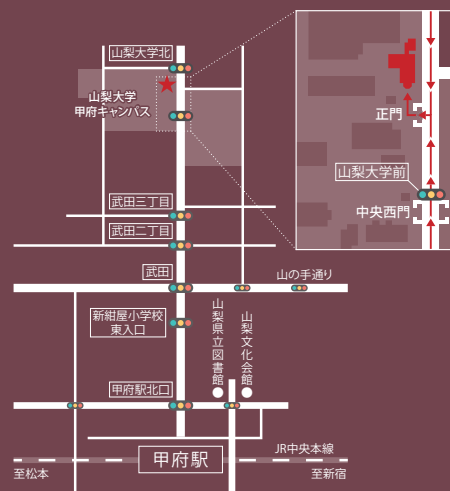
この学術館に多くの皆さまがご来館されることを祈念するとともに、「大村智記念基金奨学金」の給付など大村博士のお名前を冠にいただいた事業を幅広く展開していくために、今後とも皆さまの絶大なご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

利用案内

	展示コーナー(1階)	大村記念ホール(2階)
開館時間	午前10時～午後4時	午前9時～午後9時
休館日	火曜日 大学の夏季休業期間 年末年始 <small>※臨時で休館となる場合がございます。ホームページをご確認ください。</small>	年末年始
入館料・使用料	無料	基本使用料 1時間2,900円 <small>※使用方法によって料金が異なる場合がございます。詳細は本学術館事務室へお問い合わせるか、ホームページをご覧ください。</small>

交通アクセス

[マ ッ プ]



- [駅 から 徒 歩] JR甲府駅北口より武田通りを北上
所要時間約15分
- [バ ス] JR甲府駅北口バスターミナル2番乗り場
「武田神社」または「積翠寺」行き
バス停「山梨大学」下車
- [車] 中央自動車道「甲府昭和IC」で下りて
一般道を北東の方向へ
国道20号線またはアルプス通り経由で約20分
なお、駐車スペースが少ないため、公共の交通機関のご利用をお願いします。

大村智記念学術館

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37

TEL 055-220-8059 FAX 055-220-8378

<https://omura-museum.yamanashi.ac.jp/>



大村智記念学術館

SATOSHI ŌMURA MUSEUM

学術・文化・芸術…
人々が集う新たな交流の場に

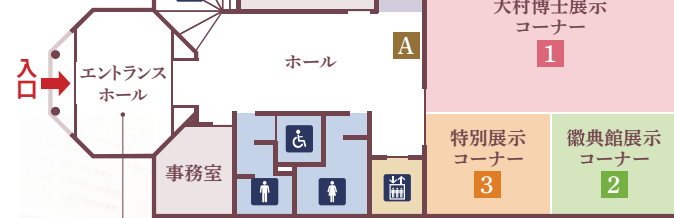


山梨大学大村智記念学術館

大村智記念学術館フロアマップ

山梨大学学芸学部(現・教育学部)を卒業された大村智博士が、2015年12月にノーベル医学・生理学賞を受賞されました。本学では、これを機に「山梨大学大村智記念基金」を設立し、大村博士の偉業を称え、そのご功績を末永く顕彰するため「大村智記念学術館」を創設しました。

1F



学術館入口外観
山梨大学教育学部の前身である 微典館二代目校舎の八角三層をモチーフ

2F



大村記念ホール
講演会やシンポジウムをはじめとした、学術・文化・芸術活動等に利用可能な多目的ホール(収容定員150名、床面積168㎡)



ノーベル賞授賞式でカール16世 Stafus・スウェーデン王国国王陛下からメダルと賞状を受け取る大村智博士(左) 2015年12月10日(写真提供:共同通信社)



大村博士胸像
高さ180センチのブロンズ製。米ウエスレーン大学から1994年に名誉理学博士号を授与されたときの姿で立ち



大水晶
六面体の結晶面を完全な形で備えた、世界的に数少ない大型水晶。水晶の長さ97cm、最大幅径30cm、周囲80cm、柱面の最大幅18cm、重量77.5kg

1 大村博士展示コーナー

大村博士が山梨大学に在学されていた当時の写真や卒業論文、数々の研究業績、ノーベル賞受賞に関連する資料などを展示しており、大村博士の軌跡をたどることができます。



2 微典館展示コーナー

山梨大学のルーツは江戸幕府が開設した昌平黉の分校「微典館」にあります。18世紀末から現在に至るまでの時代の変遷を表す資料や微典館碑及び扁額の拓本などを展示しています。



3 特別展示コーナー

山梨大学の学部やセンター、附属施設など様々な分野における貴重な学術資料や教育研究の成果物などを展示し、本学の歴史や伝統、特色ある取り組みを紹介しています。(展示品は定期的に入替えます)



水晶庫

大村智記念学術館に併設する水晶庫では、山梨大学が所蔵する世界に類のないほど貴重で見事な水晶類の数々をご覧ください。

山梨大学は、山梨師範学校当時の1920年(大正9年)に、薬種商であり鉱物の収集・鑑定に携わっていた百瀬康吉氏から、学術的にも工芸品としても大変貴重な水晶及び水晶加工品の寄贈を受け、これらを保存・展示するために、1927年(昭和2年)に鉄筋コンクリート造りの水晶庫を建設しました。

昭和30年代後半には、宝飾業に携わっていた石原宗美氏、石川文一氏から、最新の加工技術を代表する水晶装身具・工芸品を寄贈いただきました。

水晶庫では、本学で所蔵する約170点の水晶類の中から特に学術的価値の高い水晶や水晶加工品数十点を展示しています。なお、その他の水晶類は現在、山梨ジュエリーミュージアム(山梨県防災新館やまなしプラザ内)に展示されています。

山梨県では古くから水晶が採掘され、それに伴って水晶の加工技術が工夫された結果、水晶の宝飾・工芸品の生産は本県の代表的な地場産業となっており、水晶は富士山・ワインと並んで山梨県のシンボルとなっています。



水晶硯
竹森産単結晶の手彫り
1873年(明治6年)製作



双晶結晶
半透明の平板状日本式双晶



水晶産水晶晶族
長柱状結晶の群晶からなり、一部草入り